



見通ってというのは？



A. 今後どのようになるかの予測ができること、です。

見通し、という言葉をよく使いますが、これは「今後どのようになるかの予測ができること」を意味します。

先の予測ができない状況から、終わりの時期や結果が予測できる段階になったときに使われるのですね。

見通し、とは、これからどんな物事が連続して起こっていくのか、ということです。

この見通しを予測できている状態を指して「見通しが立っている」「見通しを持っていて」と表現しています。

[放課後等デイサービス](#)や[児童発達支援](#)を利用している子どもにとっては、ほとんどの場合は子ども自身がこれから行う行動の連なり、のこと。

そして、子どもたちにとっては、見通しを持つ、ということはけっこう苦手なことだったりするわけなのです。

見通しは、他者から与えられてもいいし、自分で持ってもよいものなの。

でも、その見通しが正しいか、その通りに進行するかは解らない、のですね。

その都度修正をしながら、やっぱり見通しを持って行動しているものなのです。

「そこにランドセルを置いてからサッと手を洗ったら、すぐにおやつの時間だよ」と言葉でやってほしい行動を言うとはずす。

ランドセルを置く ➡ 手を洗う ➡ おやつを食べる

という見通しになりますね。

この言ったときに、[特性や障がい](#)があると、相手の声色や表情から、相手の適切な意図を情報として読み取ることは難しいのです。

例文でいえば、そこに、サッと、すぐに、などのあいまいな表現にはイメージがつかめず理解が難しいと感じるため、戸惑ってしまうと思われます。

相手の言葉をそのまま受け取ることも多いため、しっかりと手を洗わず済ましてしまうかもしれません。

拘りを持っていたりすると、自分のルールから外れることに抵抗を感じるかもしれません。

相手の考えを読む力が弱いことで、かえっていろいろと考えてしまったり、重層的・同時的な思考が苦手なために、複数の言葉での表現に動けなくなってしまうことも考えられますね。

ひとつのことに集中しすぎて、時間に間に合わなかったりスケジュールから外れてしまうこともありますね。

衝動性が高いため自分の興味が優先されてしまったり、やりたい気持ちが勝ってしまうことも考えられます。

ワーキングメモリが低いと、情報の組み立てが苦手で優先順位がつけられないことも多いよね。

興味が無いから先延ばし、ということもよくあることだと思います。

言葉の指示だけでは想像することが難しい、という特性があると、また違ってきます。

言われたことを保持する力があっても、想像する力が弱いと、やはりうまくいきませんよね。

サポートが必要な子どもは、言葉で言われたことを想像する、保持する力が弱いことが多いのです。

頭の中に見通しを持てると、それに従ってサッと行動できますが、特性や障がいがあると、頭の中でこれらの情報を処理することが難しい。

見通しを持つ力がそもそも弱かったり、見通しを保持する力も弱いからね。

言葉だけでは見通しを持ちにくいから、声掛けだけでは動けないし、言葉で言われた通りの行動につながらないのです。

見通しをしっかりと頭の中に持てていないので、いま自分がやりたいことをすぐに行動に移してしまう。

目の前に好きなものが見えているとそれを使ってなにかをするけれど、そうでないものには見向きもしないし、今自分のやりたくないことは、ほぼすることは少ない。

目の前に自分が嫌いなものがあるとそれを避けるなど、自分にメリットのないことは、まずやらないのです。

やらない、というよりは出来ない、といったほうが正確かもしれませんね。

これを無理やりやらせてしまうと、パニックになってしまったり強い抵抗をしてしまうのです。

そうならないために、見通しを持つ、という力が必要になってくるのですね。

写真や絵カード、手順書やスケジュールなど目で確認できる視覚支援は有効とされているわ。

もちろん視覚支援も、その子どもに合った方法であることが必要です。

子どもが安心して見通しを持てるように、本人の特性や障がいに[合ったサポート](#)を考えていく必要があるのですね。

[《MENU》](#)

[《リフレーミングの種類と技法は？》](#)

[《メタ認知ってというのは？》](#)

2023-12-18 掲載